

金港呼ばれるわけ

横浜 sea 聞

発行元

西池袋中学校
1年1組
菊池凜音

横浜港の歴史を紐解く

金港と呼ばれるほどの美しさをまとう横浜港。その歴史は鎌倉時代にも及び、神奈川湊に原型をおく。一八五三年に初めてペリーが浦賀沖に現れてから六年、日米修好通商条約により開港した。横浜港は日本の玄

関口となっており、世界の国々と盛んに貿易をしてきた。明治初期までの代表的な輸出品は生糸や茶、輸入品は綿糸や砂糖。生糸輸出は綿糸輸入と並ぶ最大の貿易品となり、横浜は生糸貿易港として世界に名を馳せた。明治二〇年代になると港湾設備の整備が行われ、この第一期築港工事により内防波堤と現在の大きな橋が造られた。日清戦争後、東洋最大の港となった神戸港に対抗するべく港湾設備の建設を積極的に行うと一八九九年に第二期築港工事が開始した。赤レンガ倉庫と新港埠頭はその時代に横浜市が政府に働きかけて完成させたものだ。一九二三年、関東大震災により横浜港は大きな被害をもたらした。その後の復興で日本で最初の臨海公園「山下公



日本丸と船のイロイロ

太平洋の白鳥



園をはじめ、今の横浜を代表する建築物や名所が造られた。昭和に入ると京浜工業地帯が形成され、生糸貿易港から工業港となりつつあった。当時は製鉄・造船・自動車などの軍需産業が盛んに行われ、太平洋戦争後も鉄鋼・機械類などを輸出して工業に力を入れていた。そんな波乱万丈な歴史こそが港の美しさの秘訣なのだろう。

総帆数二九枚が織りなす美しさ。現在、国指定文化財にもなっているそれは「太平洋の白鳥」「海の貴婦人」とも呼ばれている。日本丸は航海練習船で船員(船舶職員)の養成を目的として活躍し、その数一九

八四年に引退するまでの五年間で約一一五〇〇人を育てた。一九二七年「霧島丸」が千葉県銚子沖にて沈没する事故が発生した。この事故を契機に一九三〇年、日本丸は造られ、太平洋を中心に訓練航海をして

いた。途中、太平洋戦争や朝鮮戦争などの壁があったが無事引退を迎え、海洋練習船としての役割を「日本丸二世(現:日本丸)へと受け継いだ。ところで、モノや人を乗せて海の上を移動する「船」だが「船」には様々な種類がある。レジャーとしての船旅を楽しむ「外航客船」、人と貨物を一緒に運べる「フェリー」。他にも、天然ガスをメインスーパードで液体にした「LNG船」、一方で救助や海上の安全を守るための「巡視船」という海上保安庁の船もある。私達が普段、信号を渡るように船にも信号がある。例えば、「アイ」の文字の点滅は入航してよい、「オー」の文字の点滅は出航してよいことを表す。船はこうして私たちの生活にとっても大きく関わっている。

海の美しさに憧れて

私が思ったこと。

私は今回、横浜港やその周辺について学び、見て、感じたことがある。「海の美しさ」に憧れをもった。「海」は眺めるだけで溜まったストレスや不満をきれいに洗い流してくれる。それだけではない、生きる希

望も与えてくれる。それだけ海は神秘的であり、そこに「美」が存在する。私はそんな海に憧れ、自分もそうなりたい。だが、現在「マイクログラスチック」を始めとする生活ゴミが海に膨大な量潜んでいる。そ

の影響で海で生きている生き物たちは次々と消え去り、ついには「海の美しさ」さえも消えていく。そ



れを気づかぬうちにしてしまっていたことに「申し訳無さ」が生まれた。「海の学習」を通して、「海の美

しさ」を私自身が破壊していたのだという事実に触れた。だから、これから私は海を知り、海を伝えるとともに、ゴミの分別・回収、そしてゴミを最小限に抑えることを実行したい。またそれだけではなく、より深く環境保全についても調べ、私達の住む地球を「きれい」にしてゆきたい。これからも美しく輝く海であり、心のお薬にもなってくれる海を守りたい。